

氏 名	細川 海音
授 与 し た 学 位	博 士
専 攻 分 野 の 名 称	医 学
学 位 授 与 番 号	博 乙 第 4503 号
学 位 授 与 の 日 付	令和元年6月30日
学 位 授 与 の 要 件	医歯薬学総合研究科 (学位規則第4条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	One-year outcomes of a treat-and-extend regimen of intravitreal afibercept for polypoidal choroidal vasculopathy (ポリープ状脈絡膜血管症に対するアフリベルセプト硝子体注射 treat and extend法の1年成績)
論 文 審 査 委 員	教授 大内淑代 教授 木股敬裕 准教授 黒住和彦

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ポリープ状脈絡膜血管症 (PCV) は滲出型加齢黄斑変性 (AMD) の一病型であり、アジア人の AMD の 10-54%を占める疾患である。我々は以前に PCV に対して抗 VEGF 薬の一種であるアフリベルセプト硝子体注射 (IVA) を 6 カ月間行い、ポリープ病巣の退縮と視力向上の両面で効果が得られたことを報告した。最近では抗 VEGF 薬硝子体注射の投与方法として計画的 (proactive) 投与である treat and extend 法が広く用いられているが、PCV に対する treat and extend 法の効果はまだ不明である。そこで今回我々は、治療歴のない PCV37 眼に対して IVA を用いた treat and extend 法を行い、1 年の治療成績を検討した。また、37 眼を非再発群、反応不良および再発群の 2 群に分類し、両群の経過を比較するとともに 2 群に関連する因子を検討した。その結果、視力、中心網膜厚とともに 1 年間で有意な改善を認め、2 カ月毎固定投与を行った過去の報告と比較すると通院回数が少なかった。また、非再発群では反応不良および再発群と比較して視力、中心網膜厚とともに有意な改善を認めており、両群に関連する因子は治療前のポリープ数であった。今回の結果から PCV に対する IVA の treat and extend 法の有効性が示された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

ポリープ状脈絡膜血管症 (PCV) の治療として、抗血管内皮増殖因子(VEGF)抗体硝子体注射が行われている。本研究では、VEGF への結合力が強く硝子体内滞留時間の長い「アフリベルセプト」硝子体注射(IVA)を行い、計画的投与法である treat and extend(TAE)の効果について 1 年の治療成績を検討した。未治療の PCV(37 眼)に対して IVA を毎月三回行い、滲出消失後は投与間隔を延長して継続、再発例には二週ごとの間隔に短縮した。非再発例、再発例に分けて視力、中心網膜厚、ポリープの数等を調査し、両群に関連する因子を多重ロジスティック回帰分析した。その結果、視力が改善(29.7%)・維持(67.6%)され、ポリープ病巣退縮を認める(51.4%)など治療効果が示され、再発群には治療前ポリープ数が関連していた。

委員から、ポリープの組織像や病因、再発例への治療法、副作用の有無について等の質疑があった。本研究者は、PCV の病態、他治療法の併用、稀に高眼圧をきたすなど具体的に回答した。

本研究は、PCV に対して改良型抗 VEGF 抗体を用いた TAE 法の有効性について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。